

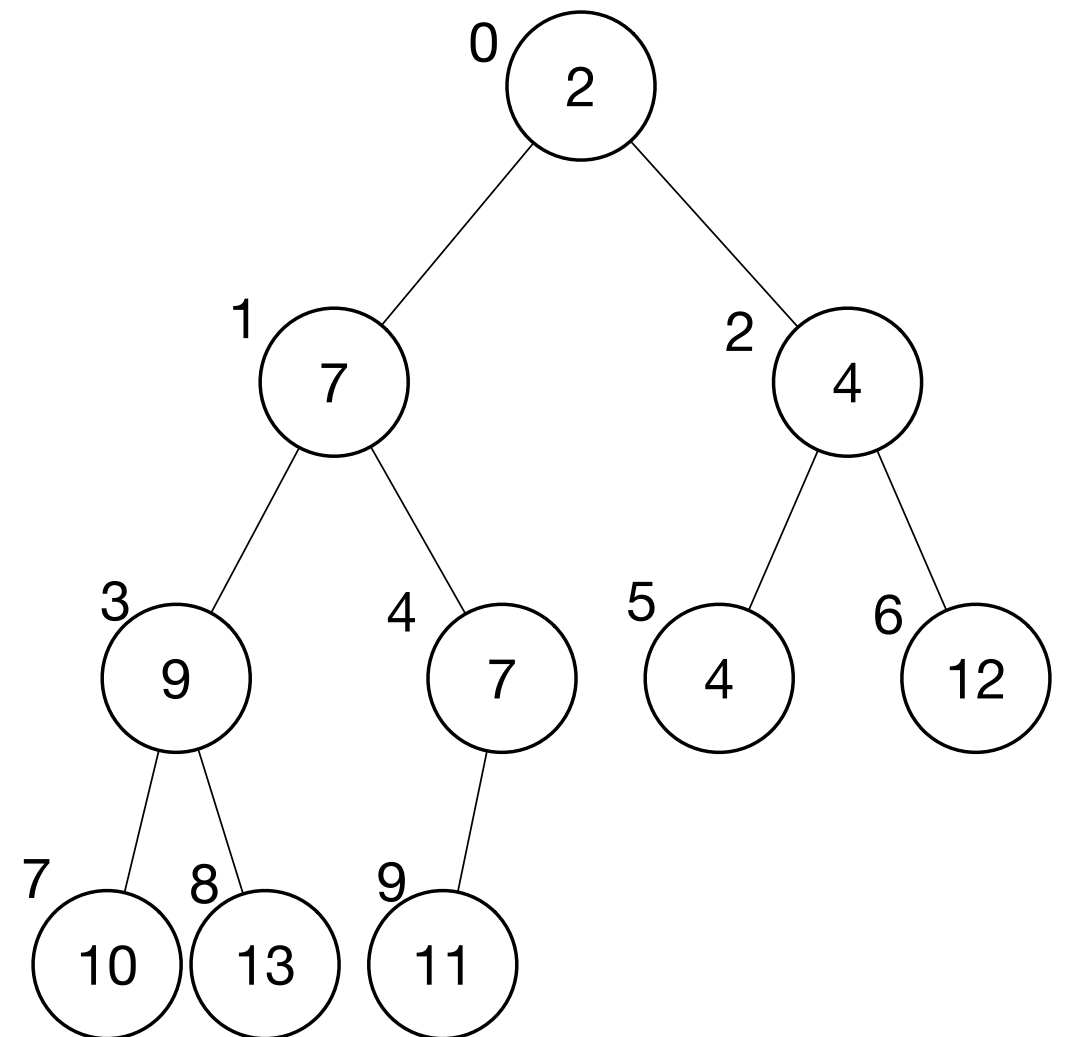
データ構造とアルゴリズム

第6回 整列(2)

小池 英樹 (koike@c.titech.ac.jp)

HEAPSORT

- ▶ ヒープの特徴（復習）
 - ▶ 親節点の値 \leq 子節点の値
 - ▶ ルートが最小値
 - ▶ `deletemin()` で最小値を削除した後もヒープ条件は保存される



0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
2	7	4	9	7	4	12	10	13	11	-

配列による実現(n=10, N=11)

HEAPSORT

➤ 考え方

- 与えられた数の集合を順にヒープに追加(insert)
- ヒープから最小要素を次々に削除(deletemin)して並べる

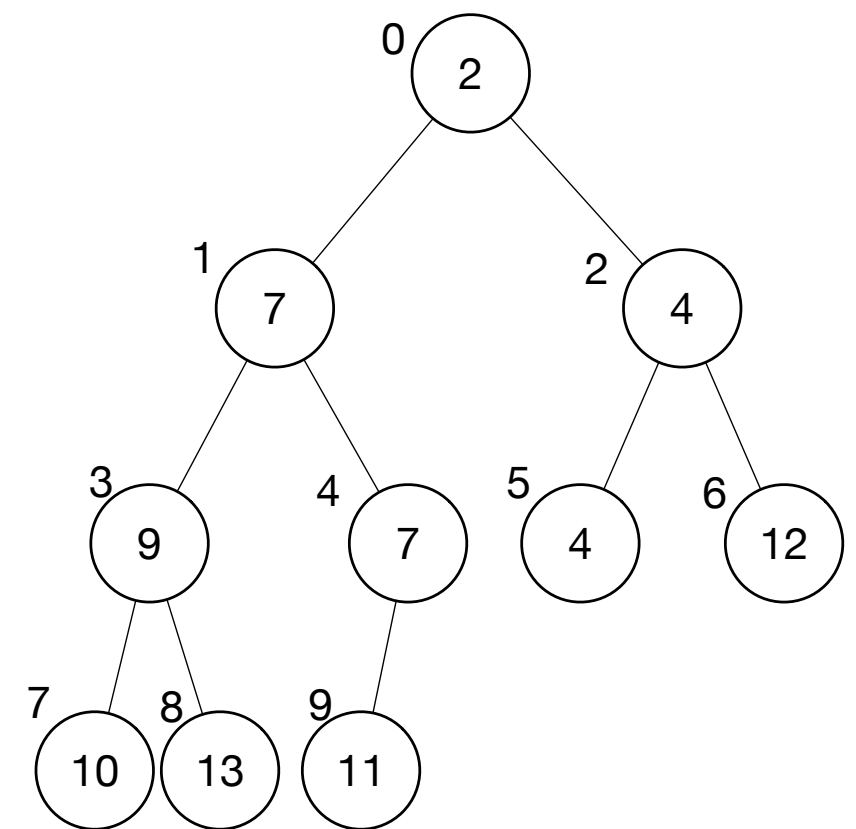
➤ アルゴリズム

```
/* 全要素をヒープに挿入。Hはヒープ */
```

```
for (i=0; i<n; i++)  
    insert(A[i], H[i]);
```

```
/* 最小要素を削除して並べる */
```

```
for (i=0; i<n; i++)  
    A[i] = deletemin(H);
```



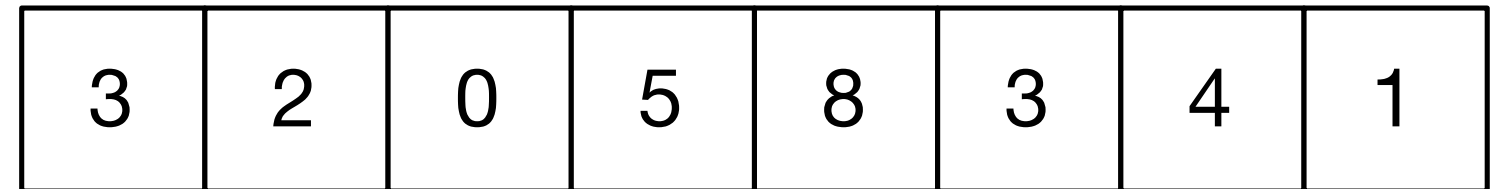
HEAPSORTの計算時間

➤ 計算時間

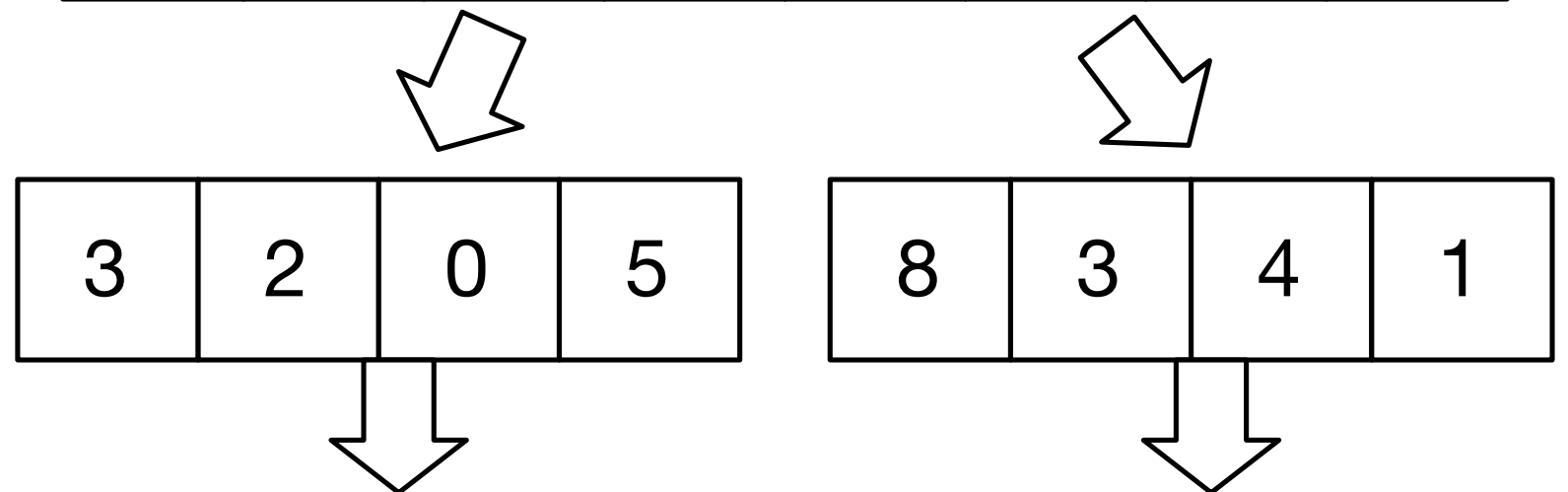
- `insert()`が $O(\log n)$ なので、最初のループが $O(n \log n)$
- `deletemin()`が $O(\log n)$ なので、次のループが $O(n \log n)$
- 結局, $O(n \log n) + O(n \log n) = O(n \log n)$

MERGE SORT

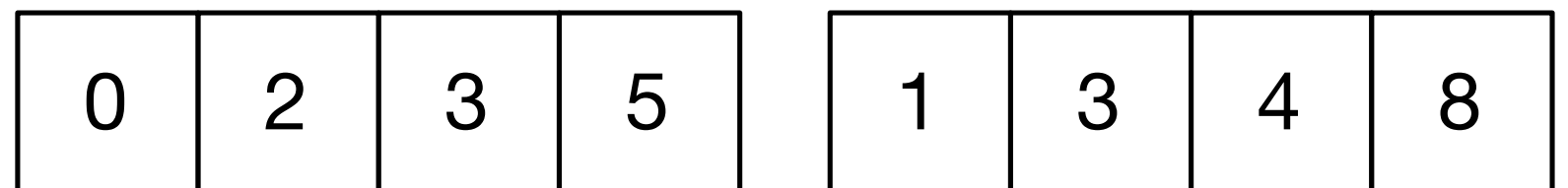
➤ 基本的な考え方



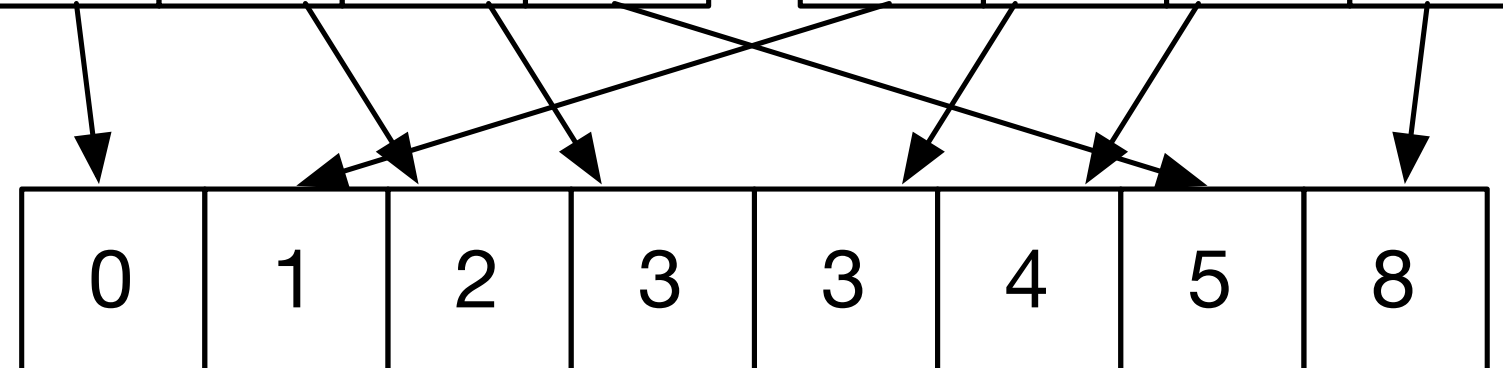
配列を 2 等分



それぞれをソート



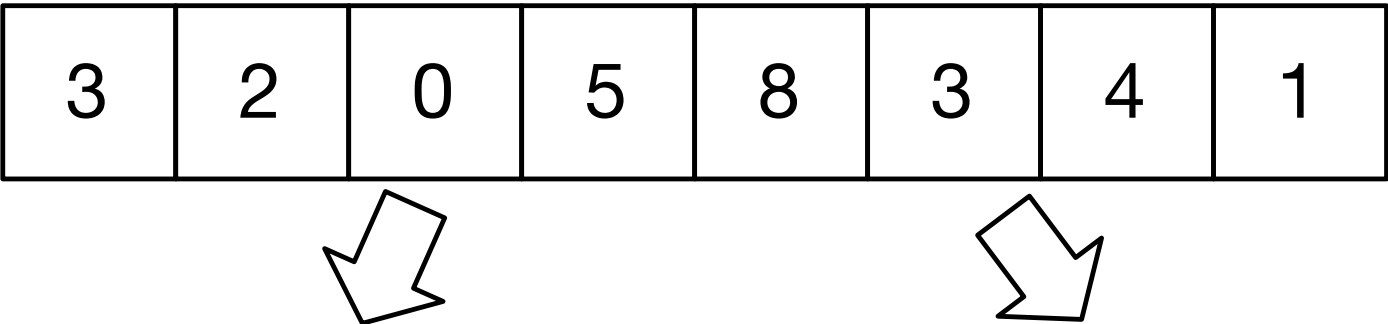
2つの配列をマージ



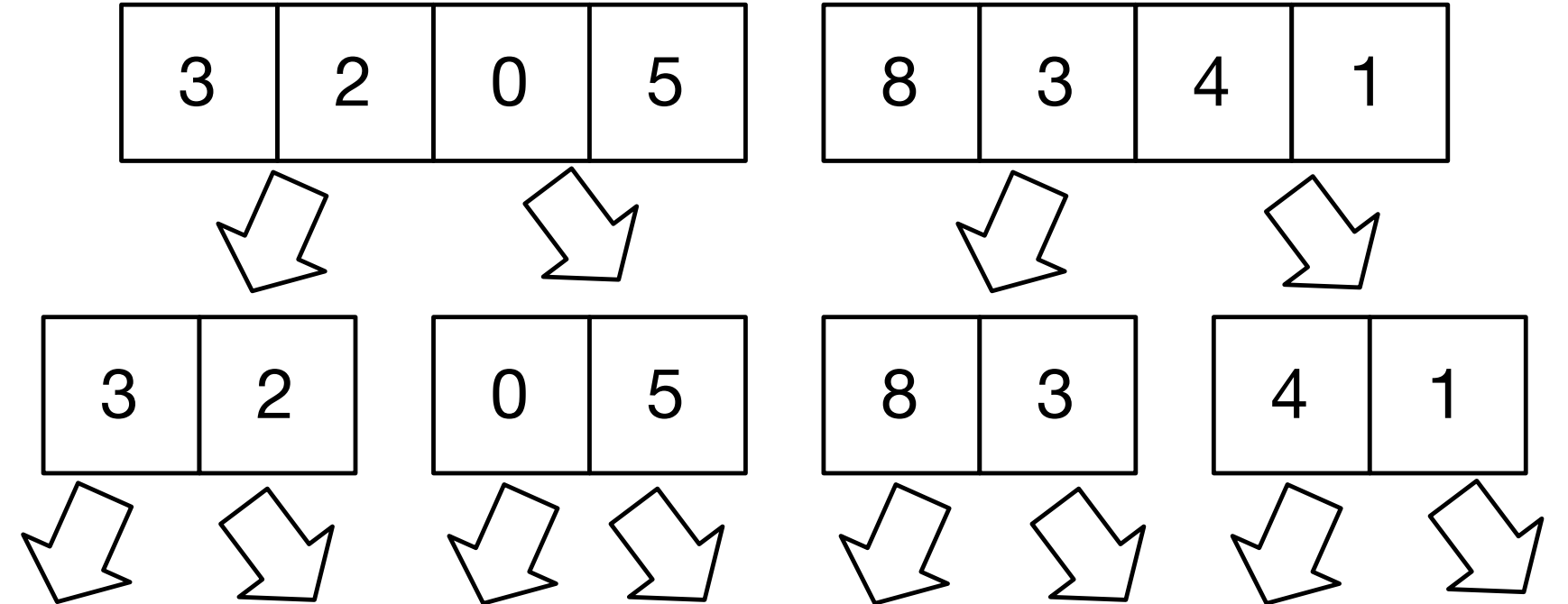
MERGE SORTの動作（前半）

.....

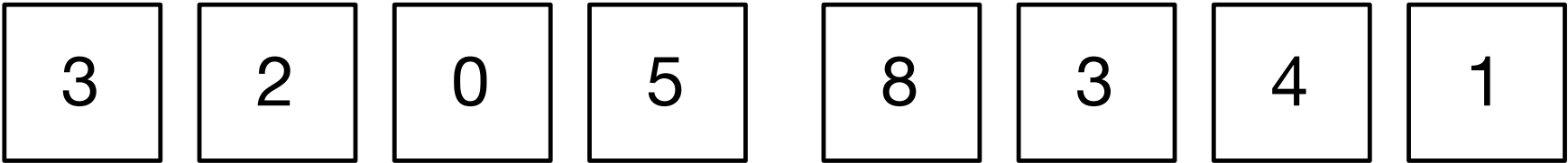
配列を 2 等分



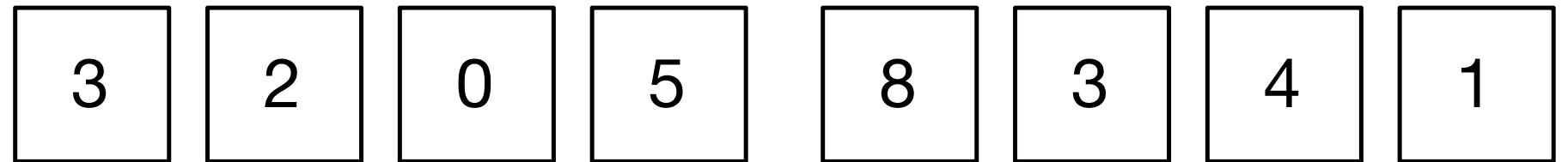
配列を 2 等分



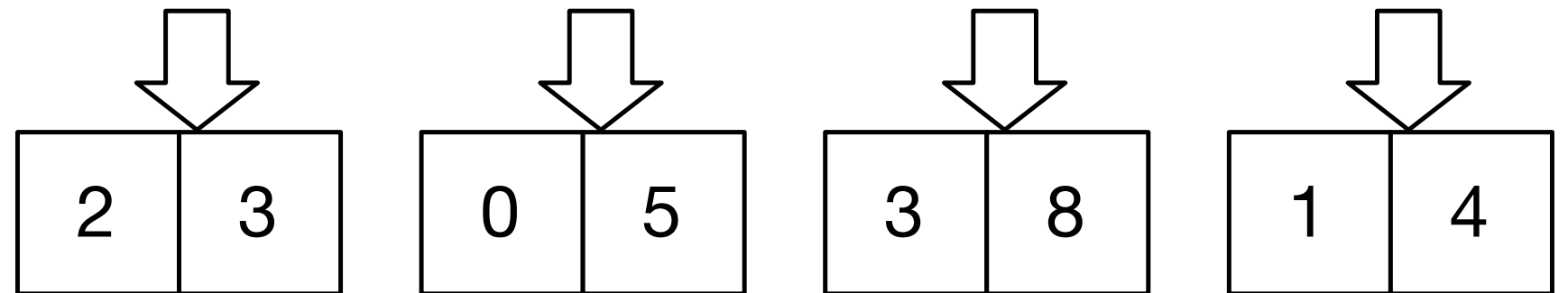
配列を 2 等分



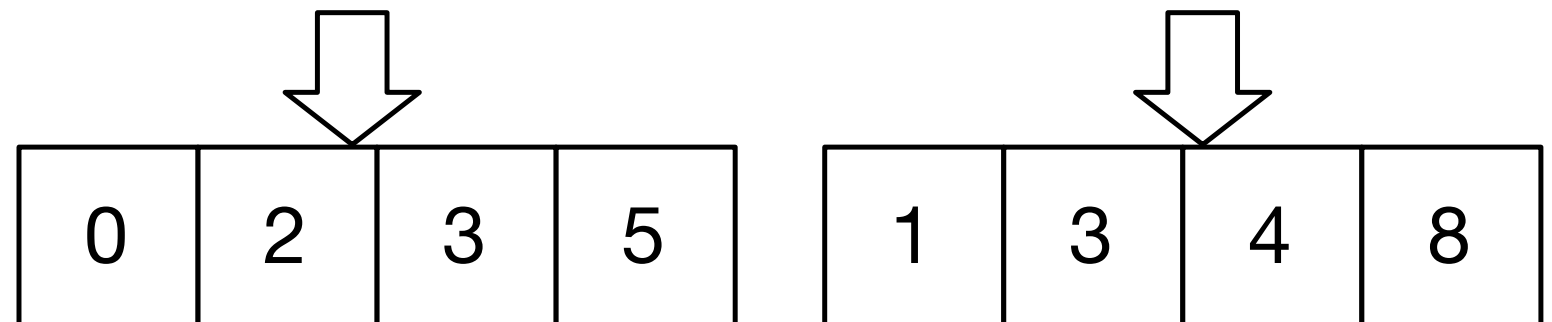
MERGE SORTの動作（後半）



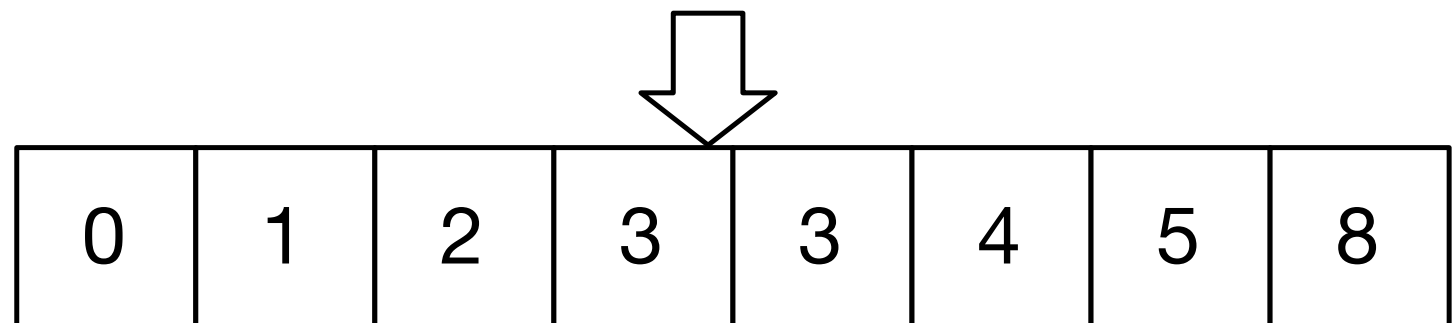
ソート列をマージ



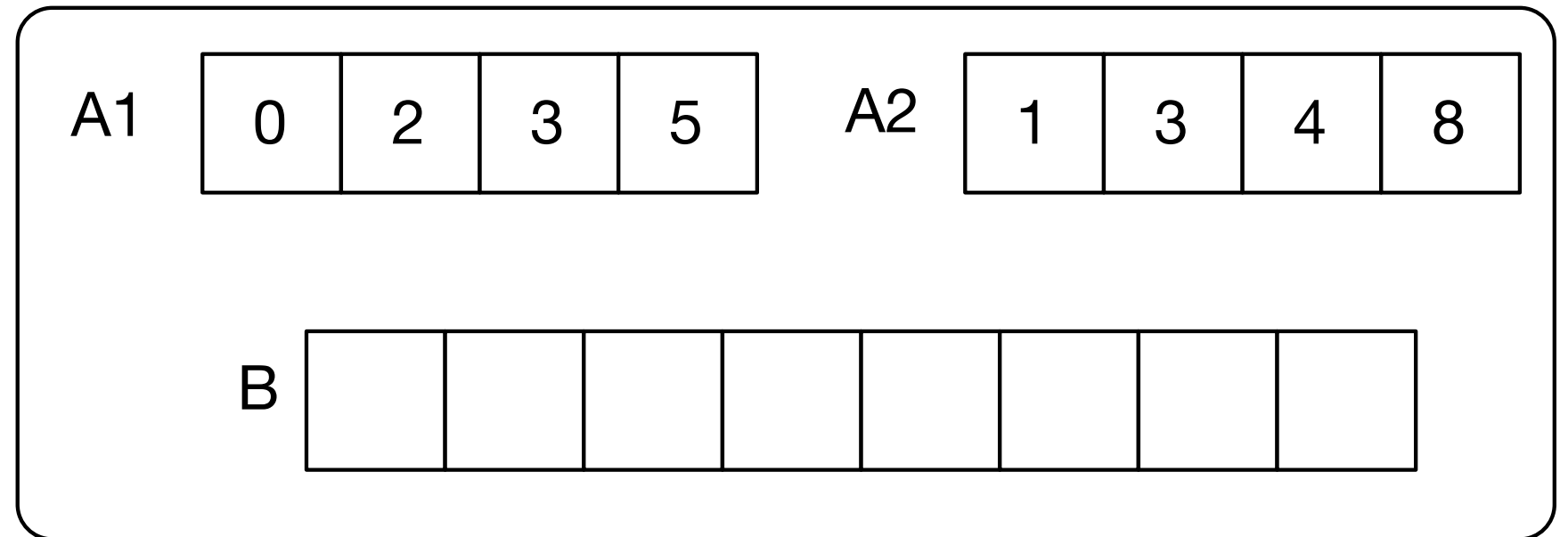
ソート列をマージ



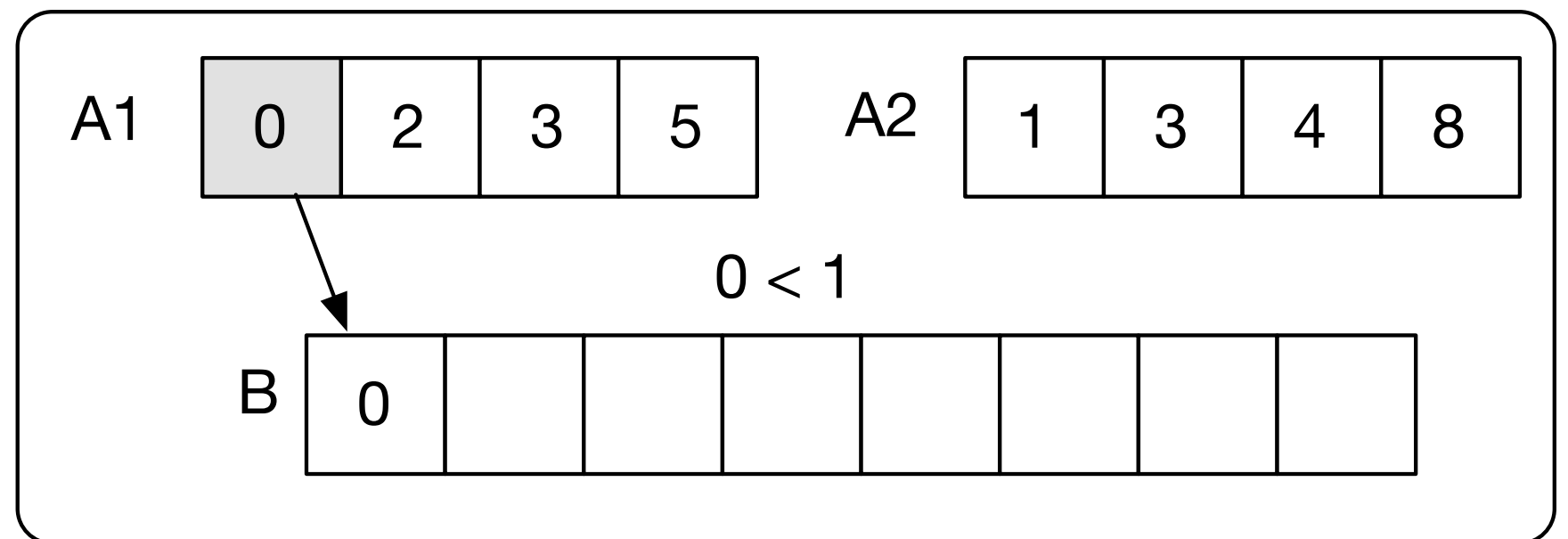
ソート列をマージ



結果を格納する配列 Bを準備

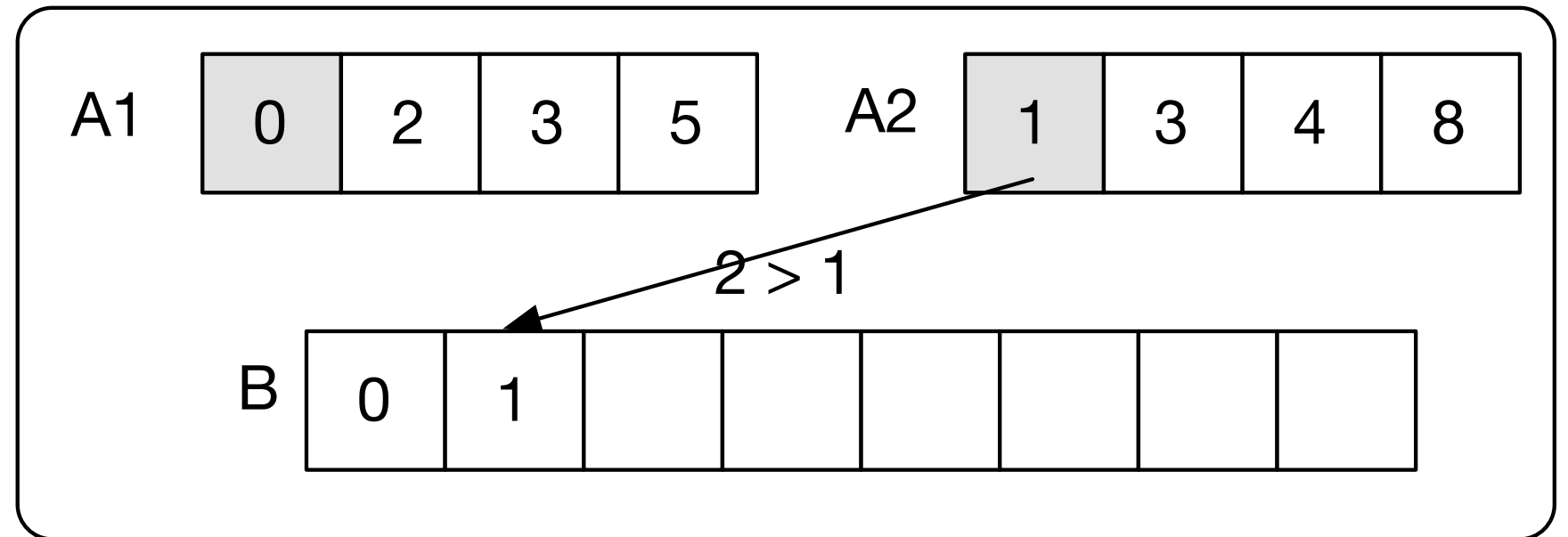


A1とA2の先頭を比較し、小さい方をBの空欄の先頭に

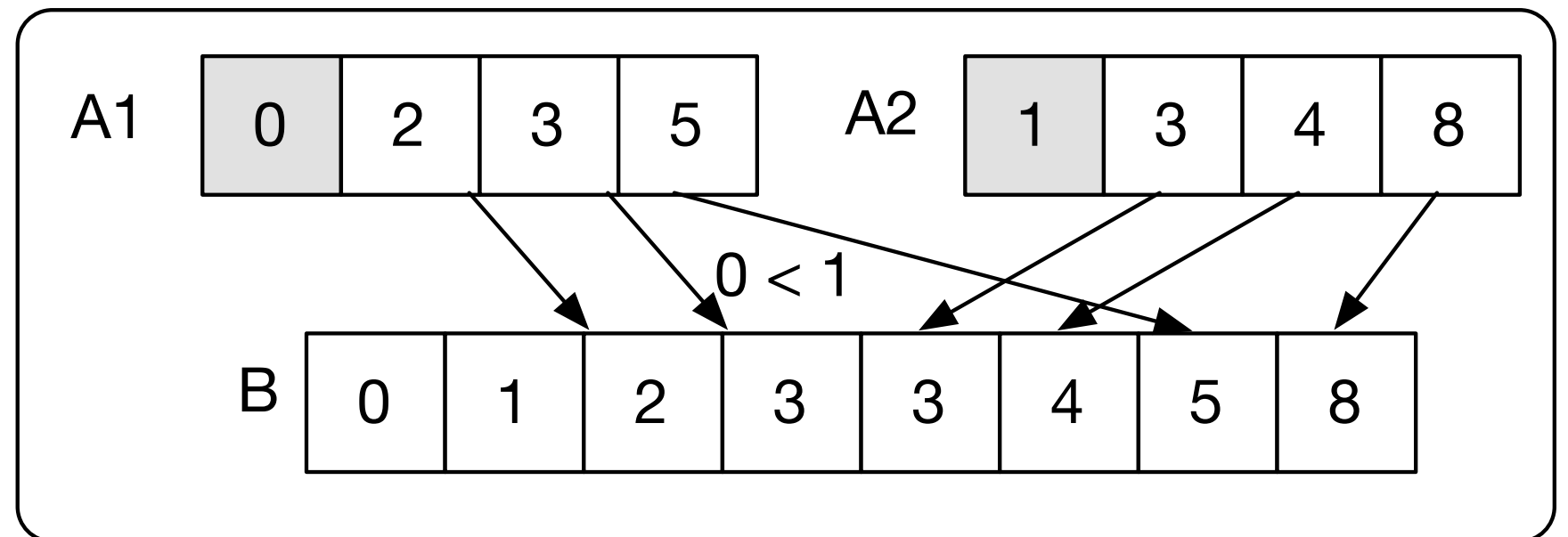


ソート列のマージ

A1とA2の先頭を比較し、小さい方をBの空欄の先頭に



この作業を繰り返す

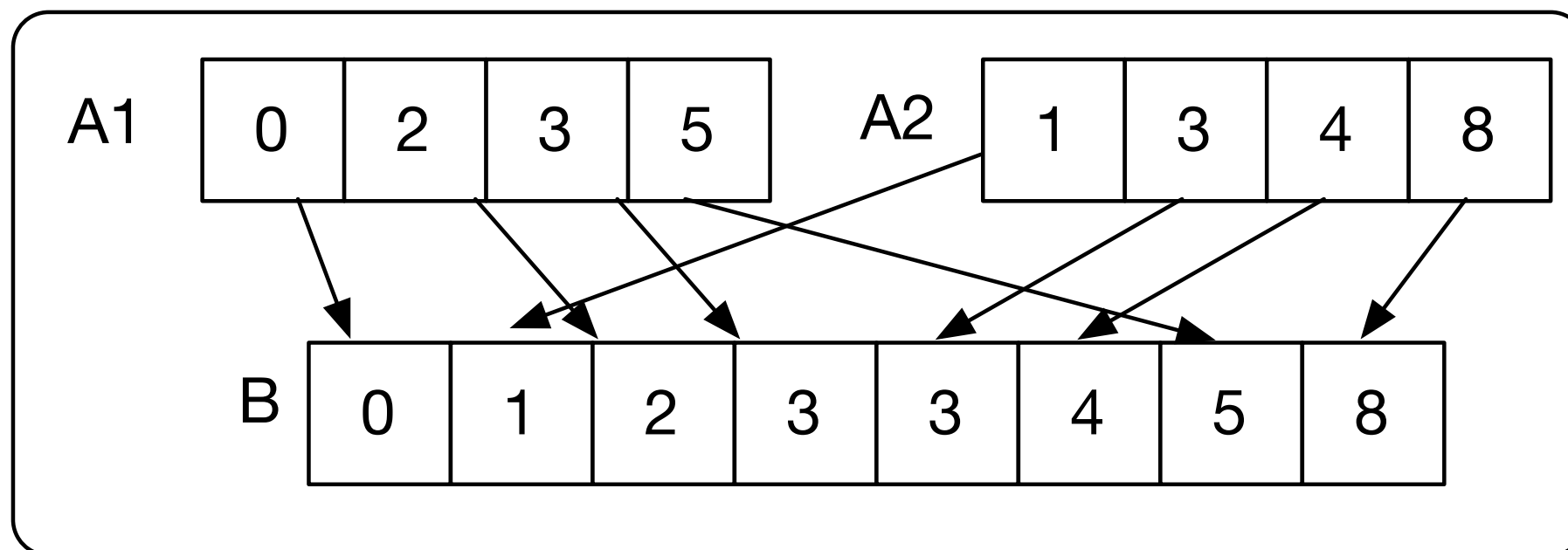


MERGE SORTの計算時間

➤ 計算時間

- $n1 = A1$ の要素数, $n2 = A2$ の要素数
- $A1$ と $A2$ の各要素に対して
 - 他の要素との比較
 - B に要素を書き込む

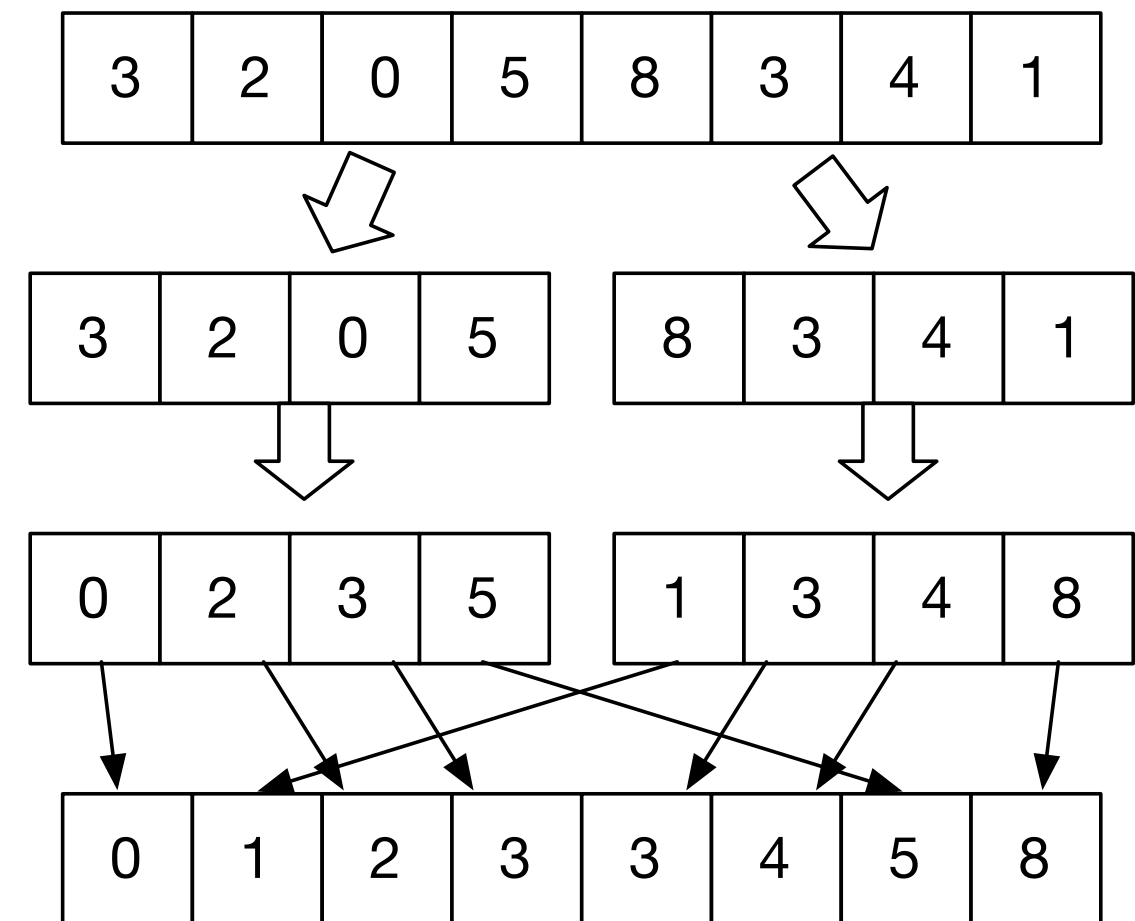
} 定数時間 c



$c(n1+n2)$ 時間

MERGE SORTの計算時間

- $T(n)$ = n 個の要素のソート時間 (n は2のべき乗)
- 配列を2分割
 $c' n$ 時間
- 2分割された配列を再帰的ソート
 $T(n/2) \times 2$ 時間
- ソートされた2つの配列をマージ
 $c n$ 時間



MERGE SORTの計算時間

➤ $T(n)$ = n 個の要素のソート時間

➤ $T(n) = 2 T(n/2) + (c+c') n$

➤ これを解くと

$$T(n) = (c+c') n \log n = O(n \log n)$$

QUICKSORT

- ▶ 内部ソート法としては最も効率の良い方法.
 - ▶ 平均： $O(n \log n)$, ただし最悪 $O(n^2)$
- ▶ 考え方：
 - ▶ 整列する範囲の中から基準値(pivot)を 1 つ決める
 - ▶ 基準値より小さいデータは左, 大きいデータは右に集める (分割：partition)
 - ▶ 左部分と右部分のそれぞれにクイックソートを適用

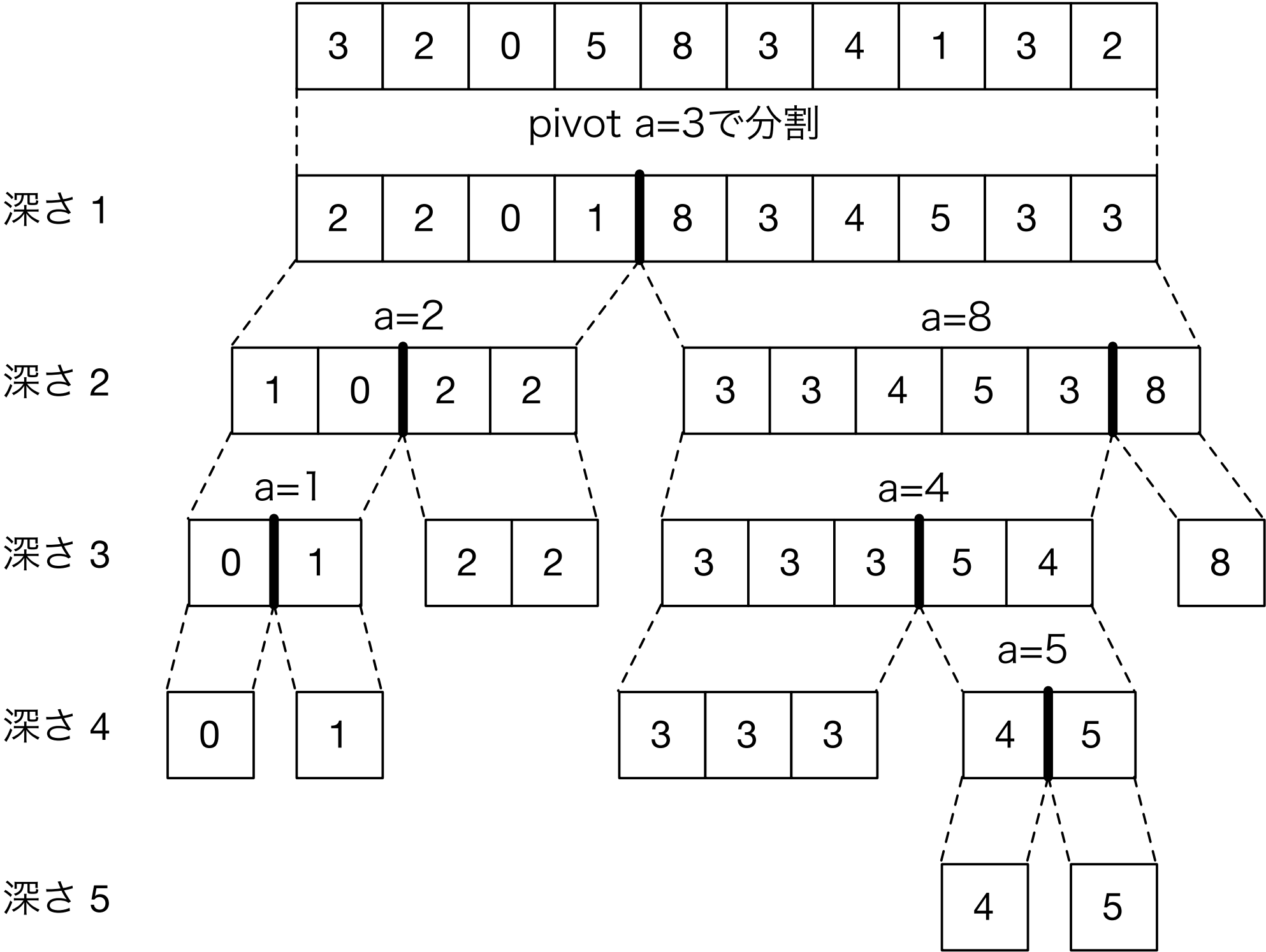
QUICKSORT

- ▶ 従来の整列法はそれぞれの要素が収まる位置を 1 つずつ決めていたが、quicksortは、位置決めは後回しにして、全体を 2 分する.
- ▶ quicksort, mergesortのように、問題をいくつかの部分に分解して解き、その結果を組み合わせで全体の解を得る方式を分割統治法(divide and conquer)と言う.

QUICKSORT: PIVOTの選び方

- 良い選び方
 - 配列をほぼ 2 等分する
 - pivotの選択に時間をかけない
- pivotの選び方
 - ランダムに 1 つ選ぶ
 - 左端, 右端, 真中の位置の 3 要素の中央値を選ぶ
 - 左から見て最初に得られた 2 つの異なる値の大きい方を選ぶ

QUICKSORTの動作



QUICKSORT (MAIN PROGRAM)

```
void quicksort(int i, int j, int *A) {
    int a, pv, k;

    pv = pivot(i, j, A);          /* iからjの範囲でpivotを選ぶ */
    if (pv != -1) {               /* pivotの位置の値 */
        a = A[pv];
        k = partition(i, j, a, A); /* iからjを基準値 aで分割. kは分割位置 */
        quicksort(i, k-1, A);      /* iからk-1をソート */
        quicksort(k, j, A);        /* kからjをソート */
    }
    return;
}
```

QUICKSORT: PIVOTの選択

- $A[i], \dots, A[j]$ から $A[pv]$ を選び出力
- $A[pv]$ は $A[i]$ と最初に異なる $A[k]$ と比べ大きい方. 全て同じなら $pv = -1$

```
int pivot(int i, int j, int *A) {
    int pv, k;

    k = i+1;
    while (k <= j && A[i] == A[k]) /* 異なる値を探す */
        k = k+1;
    if (k > j) /* 見つからない */
        pv = -1;
    else if (A[i] >= A[k]) /* A[i]の方が等しいか大きい */
        pv = i;
    else /* A[k]の方が大きい */
        pv = k;
    return(pv);
}
```

QUICKSORT: グループの分割(PARTITION)

- 前半は $A[i], \dots, A[k-1] < a$, 後半は $A[k], \dots, A[j] \geq a$

```
int partition(int i, int j, int a, int *A) {
    int l, r, k;

    l = i; r = j;
    while (1) {
        while (A[l] < a) /* pivot aより大きい値を探す */
            l = l+1;
        while (A[r] >= a) /* pivot aより小さい値を探す */
            r = r-1;
        if (l <= r) {          /* A[l]とA[r]を交換 */
            swap(l, r, A);
            l = l+1;
            r = r-1;
        } else                /* l>rでループ終了 */
            break;
    }
    k = l;
    return(k);
}
```

```
void swap(int i, int j, int *A) {
    int tmp;

    tmp = A[i];
    A[i] = A[j];
    A[j] = tmp;
    return;
}
```

QUICKSORTの計算時間

- $T(n)$ = n 個の要素のソート時間とする
- 一般の場合： k 個と $n-k$ 個に分割される ($1 < k < n$)

- $T(n) \leq T(k) + T(n-k) + c n$

- 帰納法により，解は

$$T(n) \leq 2c n^2 = O(n^2)$$

- 実際的には，数列がほぼ半分分割される
 - 実用上の計算時間は $O(n \log n)$ ，平均時間も $O(n \log n)$

比較

- ▶ 実際的な計算速度は $\text{quicksort} > \text{merge sort} \approx \text{heap sort}$
- ▶ 実際に整列を必要とする問題では、quicksortをまず考えるべき。
- ▶ heap sort, merge sortは平均も最悪も $O(n \log n)$ で、計算量の面で安全。
- ▶ merge sortの欠点は整列する配列と同じ作業領域を必要とすること。（主に2次記憶に蓄えられた大きなデータの整列）

参考：ALGORITHM ANIMATION

<https://visualgo.net/en/sorting>

<https://www.toptal.com/developers/sorting-algorithms>

ソートのまとめ

	best	average	worst
bubblesort	$O(n)$	$O(n^2)$	$O(n^2)$
insertion sort	$O(n)$	$O(n^2)$	$O(n^2)$
selection sort	$O(n^2)$	$O(n^2)$	$O(n^2)$
heap sort	$O(n \log n)$	$O(n \log n)$	$O(n \log n)$
merge sort	$O(n \log n)$	$O(n \log n)$	$O(n \log n)$
quicksort	$O(n \log n)$	$O(n \log n)$	$O(n^2)$